

第 414 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 7 年 9 月 2 日 (火) 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] K-MIX MOVE ON (水・木)
[放送日時] 令和 7 年 8 月 28 日 (木) 15:08～18:55
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 委員 服部乃利子
委員 加藤裕治 委員 小野晃司
委員 土屋維子 (5 委員 / 6 委員)
[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部専任部長 鈴木秀明

5. 事務局報告 ○ 昨今の日本経済のトレンドと K-MIX の対応について

6. 番組審議

- [番組名] K-MIX MOVE ON (水・木)
- [放送日時] 令和 7 年 8 月 28 日 (木) 15:08～18:55
- [出演者] バカボン鬼塚 ひかりんちょ
- [番組内容] 「K-MIX MOVE ON」は、K-MIX のフラッグシップ
プログラムとして取り組んでいます。
ON から OFF にまたがる時間帯を意識して
K-MIX の“今”のメッセージを発信し、
K-MIX とリスナー、リスナーとリスナーが
同じ時間を過ごしていることを実感し、気持ちを
共有・共感できる、楽しくも心地よいプログラムを
目指しています。

静岡市の新静岡セノバにあるサテライトスタジオ
からの公開生放送。地域密着の“ずっと先より
ちょっと先”の情報、番組こだわりの音楽、
そして、1 日の疲れや悩みが吹っ飛び、明日への
活力につながる“笑い”。

番組のテイストは月・火と水・木で分けて、
習慣でお聴きのすべてのリスナーに 2 倍
お楽しみいただけるように設定し、水・木は
新・パーソナリティひかりんちょの個性を生かせる
テクニックを持つ、バカボン鬼塚とのコンビの妙を
打ち出している。「ティックトッカー」
「インフルエンサー」「ユーチューバー」

「モチベーションスピーカー」といった、リスナーにとって未知の世界に生きているひかりんちょのトークは、魅力や存在感があり、かつ、リスナーに愛されることもある。

[聴取・合評での主な意見]

服部委員

新パーソナリティのひかりんちょさんは、ラジオでのトークは、これからということで、決して上手とは言えないが、トーク内容はストレートで可愛らしく好感が持てる。対するバカボン鬼塚さんのトークはひかりんちょさんに対してとてもやさしい。そのため、全体を通してとてもやさしく展開する番組となっている。また、ひかりんちょさんは講演活動にも積極的とのことで、聴き手と直接触れ合える機会も多くなってくれば、さらに、パーソナリティとしての個性が磨かれるので、これからに期待できる。

土屋委員

ひかりんちょさんとバカボンさんは年齢的に、年の差パーソナリティであるものの、放送では、ジェネレーションギャップを全く感じない。トークの呼吸もぴったり合っていて聴きやすい。しかしながら、この違和感のなさが実は、ひかりんちょさんという若年層を獲得できるパーソナリティをしても番組聴取者の若年化がはっきり進んでいない要素なのかもしれない。ひかりんちょさんが持っている若者層へのアプローチ要素は、ラジオ番組、その放送時間帯とバカボンさんと2人体制のトークということが相まって、落ち着くところに、ひとまず落ち着いていると思われる。今現在は、バカボンさんも聴取者も、ひかりんちょさんを優しく見守り、導く立ち位置にあり、それでよいと思う。今は、とにかく楽しい放送を心がけ、多少の言い間違い等は聴き流して良いと思う。また、聴いてみたいと思わせる今の番組の雰囲気は保つべきである。

小野委員

ひかりんちょさん、バカボン鬼塚さん双方の同世代の話題がありながら、2人の世代の差、考え方の違いを出し合う場面もある。その時に、世代間の違いに重きを置いていない所が良い。ここにこだわってしまうと、どちらかが正しく、どちらかが間違っているという結論を出さなければならなくなり、どちらかが、悪いといった印象を与える。この点を、2人がお互いに意識していることで、トークの息が合っている。また、ひかりんちょさんは飾らず、知ったかぶりをしないストレートな個性がはっきり出ていて肩の力が抜けた自然体が良い。

加藤委員

2人のパーソナリティに年齢的・トーク内容にギャップがなくこの時間帯の聴取者層、ファンを大切にしており、50代を中心にこの番組を明るく楽しい番組と捉えていると思われる。バカボン鬼塚さんというベテランに対して、ひかりんちょさんが自分の立ち位置を決めることなく、媚びず、否定せず、全く悪意なくトークを展開していて、それを、バカボンさん本人も自然に受け入れているところに好感が持てる。バカボンさんのひかりんちょさんをフォローしているように感じさせずにフォローしているところに、新世代のパーソナリティを育てて行くという熱意が見て取れる。また、同世代の若者に対する接し方を教えてくれていると考える。粘り強く番組を続けて行けば、さまざまな年齢層に裾野が広がるのではないだろうか。

木宮委員長

若い世代の女性と、人生経験を重ねた男性が、違和感なく楽しくトークできている、楽しく良い雰囲気を味わうことができるということが、すなわち、人生経験を重ねた年代の証ではあるが、バカボンさんが持っている個性的な良い意味での毒の部分よりも、楽しく良い雰囲気の2人パーソナリティの楽しいトークが好印象であるので、目指す聴取者層は、どちらなのかは一度意識してみても良いと思う。ひかりんちょさんは若者層の代弁者としての要素を確かに持っていると思う。そのため、今のままで個性を保って行くのか、地元のパーソナリティとして見守るのか、これから、どのように放送上して行くのかを見極める時期が来ると思う。ひかりんちょさんには、今後の可能性を十分に感じ取ることができる。

会社サイド

この番組は、『ネットにのっている単なる情報』はしゃべらない。趣味性・パーソナリティ全開で体験に裏打ちされたようなトークをする。オンからオフの時間帯に合うよう、徹底的にこだわった選曲をベースに、一番の年の差コンビによるトーク中心の番組としてチャレンジしています。今後のラジオの在り方を探ることも番組の要素として持っているので、新たなコーナーのアイデアをどんどん出しながら、トーク、番組内容、聴取者の反応を注視して行きます。

以上

次回開催日 令和7年10月7日(火) 11:00～13:00を予定

番組審議会委員長

木 宮 敬 信